



2024年7月28日発行

こあじろの森くらぶ通信

No.42

第 43 回交流会 「ホタルを見に行こう」

2024年5月25日（土）

参加者 20名

夏の森歩き 引橋入口からペルルカフェへ

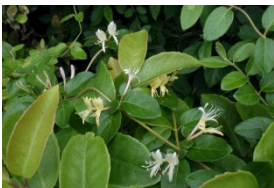
15:30 引橋入口（水道広場）に集合。参加者には小さなお子さまから、シニアまで大勢のご参加で、水道広場は賑やかです。一昨年の観察会にも参加してくれた小学生は見違えるほどお兄さんぽくなったみたい。



森に入る前に、ここで簡単なオリエンテーション。

前半は植物の観察などをしながら、明るい森の散策を楽しみます。森の彩りは、すっかり夏、まだヤマユリは見られませんが、スイカズラ、ネズミモチ、ナルコユリ、テイカカズラなどなど、白い花が目立っています。

イノデなどシダも元気いっぱいに茂っています。詳しくシダの種類が見分けられないのが、少し残念。



スイカズラ



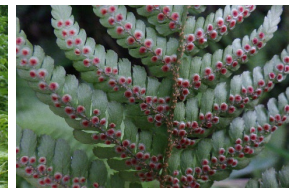
ネズミモチ



テイカカズラ



シダの仲間



緑に覆われた森がつかの間、猛暑を忘れさせてくれます。淡いオレンジ色だったヒメコウゾも熟してまんまるな実、まだ色づくには早いハンゲショウが青々としています。

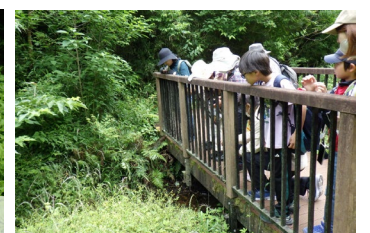
記：橋美千代 写真：浪本晴美



ヒメコウゾの実



ハンゲショウ



軽食タイムとホタルの森へのお誘い ペルルカフェ

5月25日 土曜日 蛍の交流会だ。本隊は三崎口駅から明るい内に森をくだり、小網代漁港のペルルカフェで休憩、軽食、オリエンテーションを行い、夕闇せまる7時頃出発、森を上りつつ、蛍の観察をしていこうという計画。昨年とは違い、森の中の蛍が観察できて嬉しい。

筆者は時間の関係と足の関係で、ペルルカフェから参加したので、そこでの様子を主に報告したい。

5時ちょっと過ぎに本隊がペルルカフェに到着。軽食にして貰い、6時からオリエンテーションとする。



初めはゲンジボタルの生き様を簡単に説明した紙芝居「ゲンジボタルものがたり」をスタッフの松原さんがクイズを交えて上演。次に蛍と人との関係を俳句、物語など平安時代から、江戸時代までにまたがって作品を紹介しながら考えて貰う。大場信義先生の著書から引用させて貰って説明。

夏は夜 月のころはさらなり やみもなほ 蛍の多く飛びちがひたる
また ただ一つ二つなど ほのかにうち光りていくも をかし
枕草紙（清少納言もホタルがすきだったんですね。）

こえはせで 思ひに燃ゆる蛍こそ いうよりまさる思ひなるらめ

源氏物語 25帖「蛍の巻」（言葉よりも思いに燃えるホタルの方が紫式部はよかったみたい？）

三の間の 水は甘いか 飛ぶ蛍 豊臣秀吉

昼みれば 首すじ赤き 蛍かな 松尾芭蕉

昔も今も蛍は人間と深い関わりを持っていたんだなということも少しでも分ってもらえたらと思う。秀吉でも「ほ、ほ、蛍こい。あっちの水はにがいぞ、こっちの水はあまいぞ」という童歌は知っていたのかと推測できるのではないかしら。

また文部省唱歌「蛍」という童謡を小網代の森流にアレンジして歌って貰った。以下、替え歌を記してみる。当日は歌詞がうまく伝わらなかったなので実際にはこんな風にやりたかったという願いとお詫びを

込めて以下にあらわしてみる。

①ホタルの宿は小網代の森 ジャヤナギ、アシが夜風に揺れて 川のメダカが夢見る頃は
ほ、ほ、ホタルが飛んで出る

②ホタルのオスは 嫁さん探す 4秒光って同調しつつ 草の上の嫁さん探す
ほ、ほ、ホタルは草の上

③嫁さん苔に 卵を産むよ かえった子供はカワニナ食べて おおきくなるんだ 川の中で
ほ、ほ、ホタルは 川の中

④サクラが咲くとホタルは変わる 土まゆ作って 蛹になるよ 土手の中でひと月過ごす
ほ、ほ、ホタルは土の中

⑤ドクダミ 咲くと こあじろの森 土から這い出てホタルがでるよ
相手を探して 光って合図、ほ、ほ、ホタルは森の中

歌詞をきちんとさせて歌いたかったのですが、来年への課題にさせて下さい。

歌が終わった後、浪本さんからサプライズのプレゼントが。ホタルの紙芝居のミニミニ折り本です。嬉しそうな皆の声！

声かけ役のカヲルさんに促されて身支度を調べ、懐中電灯を下げて7時に森の中へ歩き始める。眺望テラスの辺りでは大勢の人が待機している。ガードマンの方に伺うと一昨年度は4人の方が木道から落ちたそうだ。今年も大勢が歩くし、立ち止まって見ている人にぶつかりそうになる。階段の所には安全のためか明かりが置いてあったが用心して歩いて足に自信のない筆者はヤナギテラスまでで引き返した。

未だ5月末なので、ホタルの数は期待するほどではなかったが歩いている人の前に舞い降りてくる個体もあり、ホタルは楽しめた。また、初めてホタルに出会った随行者が感激してくれたので良い案内ができたと思う。

2024.6.30 記：宮本美織 写真：浪本晴美

森の中のホタル 谷を戻って水道広場へ

参加のお子さんたちと掛け合いを楽しみながら、紙芝居をさせていただいたが、こちらが幸せなひと時をプレゼントされた気分だ。

さあ、森の中のホタルはどうだろう。19:00過ぎようやく暗くなってきた森へ進む。目を凝らすと入口手前からチラホラ出現。人の出は2年前の大渋滞に比べれば、自分の速度で移動できる程度で快適！

いよいよヤナギテラス、ホタルの大競演と思いきや、さほどの数は飛んでいないように思った。全盛期の三分の一程度か？それでもゆったりしっくり、上流部まで儂い灯りの舞を見せてくれた。

ホタルの灯りに比べて、人間の持つ懐中電灯の光のなんと強烈なこと！上から降りてくる人の光は、ちょうど上っていく私たちの目を直撃する角度になってしまい、階段部分ではよけいにまぶしく感じてしまった。

光はできるだけ下に向けるという約束を守って、ホタルが命をつないでいくこの大切な夜のイベントをそっと応援し続けよう。

記 松原あかね



●●● ご参加の皆さまからメッセージをいただきました ●●●

今日初めて全行程を歩かせていただいて、こんなに広いんだなと思いました。それで、ホタルもたくさんいて、本当に今日は来てよかったです。ただ、人も多いでビックリしました。ありがとうございました。お世話様でした。紙芝居とかいろいろな説明がありまして、よく勉強になりました。どうもありがとうございました。

Y.T

今回の参加で2回目なんですけれども、ホタルを前も見ましたけれども、もう1回見てみるとやっぱりすごいなと思っていたり、紙芝居も前も見たんなんですけれど、忘れていたことがあって、今回しっかり学び直せたので良かったと思います。ありがとうございました。 R.T

R.T

母「今日どうだった？ホタル。いっぱい見れたね。肩にとまってびっくりしたね。興奮したね。」
「うん、とまったのわからなかった。」

A.T

今日はホタルを見るのは私も2回目なんですけれども、1回目とまた違って、すごく星が輝くような瞬間があって何回見ても素晴らしいなと思ったのと、あとは行きの時に植物とか昆虫とかいろいろ会の方が教えてくださって、すごく楽しく学べたので本当にありがとうございました。お世話様でした。

F.T

今日は宮本さんに誘っていただいてありがとうございます。宮本さんのお人柄も蛍の光も素敵でした。また今後もよろしく願い致します。

K.T

久々のホタルで小網代の森に入りました。ホタルがたくさんいて良かったです。みなさん無事に帰れたし、それも安心しました。また来年一緒に行きましょう。

Y.M

だんだん日が暮れて夕闇に包まれていく瞬間が一番好きだなとあらためて思いました。森の中で味わうことができるのはホタルの夜間開放の時だけですものね。

H.N

今日は素敵な、ホタルを見せていただいて、嬉しかったです。久しぶりに来ました。何年ぐらい前でしたかね、宮本さんに連れてきていただいたんですけど、今日はまた全然違う感じでほんと素敵でしたね。もう感謝、感謝。

C.K

本当はスタッフとしてもっときちんと仕事しなくちゃいけないかなと思うんですが、ホタルの替え歌がうまいかなくて皆様 すみません。通信の方でしっかりとリカバーさせていただきます。足の関係で全部歩けなかったんですが、人には蛍の海の中を歩くようだったという風に表現してました。

また足が良くなったらそういう思いもしたいと思っています。スタッフの皆さんご苦労様でした。

M.M

今日初めて参加させていただきました。飛び入りで、ありがとうございます。こんなにホタルが飛んでいるとは、わからず、楽しかったです。またよろしく願います。

S.U

事前の紙芝居も良かったし、和歌の発表も良かったし、お歌も楽しかったし、事前の学習の計画を練るのも結構大変だったろうなと思いましたけれども、こちらは学ばせていただいて。またホタルがだいぶ飛んで、なんていうか幻想的な世界に惹き込まれて行って、とても楽しかったです。ありがとうございました。 S.K

S.K

楽しかったです。でもちょっと疲れしました。右見て左見て足元見なきゃならないから大変でした。ありがとうございました。

M.O

久しぶりに参加して、前に来た時より来場者がすごく増えたなという印象を受けました。でもまあ、引き続き来年以降もみんなで観察できるといいなと思います。ありがとうございました。

T.K

今日も楽しかったです。ホタル綺麗だったし、紙芝居も脚が生えるところが良かったです(笑)。ちょっと灯りが眩しいのは工夫していかないとダメですね。ありがとうございました。

A.K

初めて参加させていただきました。いろんな植物や生物をみなさんに教えていただきながら見て歩けたのがとても楽しかったです。ホタルもすごく綺麗でした。また違う季節に来てみたいなと思いました。ありがとうございました。

Y.O

楽しかったです。

Q「一番印象に残っていることは？」

歩いたこと。

Q「歩き足りなかったですか？」

はい。

Q「次に来た時に見たいものは？」

植物。他の季節の植物。

Q「ぜひ他の季節にも来てください。」

はい。

H.O

本当に素敵な夜でしたね。私たちがいなくなったら、ホタルはきっとホッとして安心するんじゃないでしょうか。どうもありがとうございました。おもしろかったです。

K.S

プラネタリウムみたいに広がる光、スーッと通りすぎるかと思うと消えてしまう。消えたと思えば反対側から飛び上がる。森の奥の方へ目をやれば、静かに点滅を繰り返すホタルたち。今年のホタルは、とっても風流な現れ方でした。

M.H

スタッフ研修「変形菌探し 2024@光の丘水辺公園」4～6月

今年も変形菌の季節がやってきました。

4月18日：参加者2名。ニリンソウが盛りを過ぎ、確実に春は来ているのですが、変形菌にとってはまだ冬のような様子。昨年のムラサキホコリの残骸しか見つからず。ゆっくりと園内を散策して楽しみました。

5月23日：参加者3名。管理事務所裏で宮本さんがいきなり大群生を発見。こんな近くにいたなんて！最初はまだまだ白い未熟体が半分くらい混じっていましたが、見る見るうちに赤く染まり、ふわっふわになりました。



その他にもキフシスホコリ、ツノホコリ、モザイクマメホコリを確認。

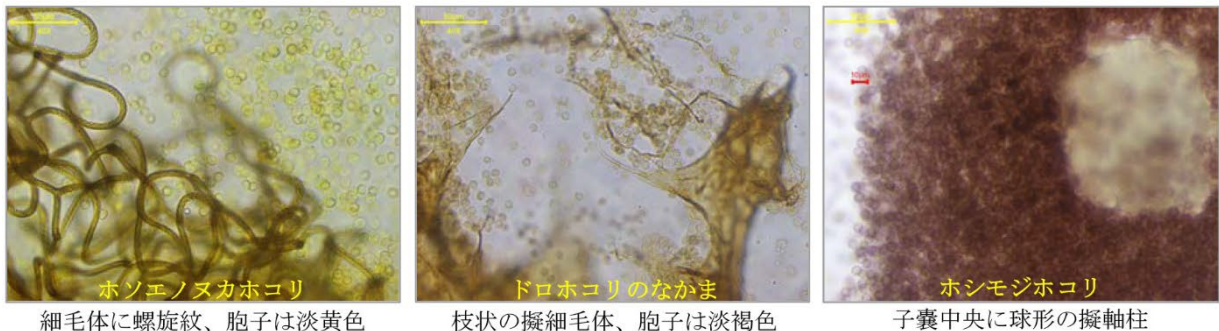
6月16日：参加者4名。ハンゲショウがお化粧を始めた雨上がりの公園。管理事務所の周りでも数種見つかり（ムラサキホコリのなかま、ドロホコリのなかま、シロウツボホコリ）、期待が高まります。散策路を外れた場所は剪定した枝や倒木を始末した丸太が積み重ねられていて、良い具合に朽ちて変形菌の住処になっています。



↑ふと手にした枝に、以前カビていて何だかわからなかった変形菌の群生発見！
成熟段階がよくわかります。高さ1～2.5ミリと本当に小さいです。

オレンジ色の大きなぶよぶよ、隣にあったアカハシラホコリの未熟体かも。翌日別府さんが変身した姿を確認してくれました。その他にホソエノヌカホコリ、ハイイロフクロホコリ、正体不明の黄色い変形菌を発見。

自宅に帰ってから久々の顕微鏡観察。思い出しながらプレパラート作り。宮本卓也先生から譲っていただいた『日本変形菌誌』（山本幸憲著）をひもとき、納得したり、余計わからなくなったり。



細毛体に螺旋紋、胞子は淡黄色

枝状の擬細毛体、胞子は淡褐色

子嚢中央に球形の擬軸柱

次回は8月4日（日）を予定、その後も引き続き月に1回くらい変形菌探しを実施いたします。参加をご希望の方は、会までご連絡ください。詳細ご案内いたします。スタッフ以外のご参加も歓迎です。 浪本晴美

■ 小網代を詩う



ヌマエビの赤ちゃん



アカテガニの赤ちゃん



波打ち際で

中井 由実

水分を含んだ重い風が吹く
さわさわと、茂った草を揺らす音をたてる

そこに？
いる？

日没を待つ赤い甲羅
小さな命の種をびっしりと抱えた
アカテガニ

息をひそめて待つ
人も
また

あの夏の思い出

中井 由実

暑い暑い夏がやってきた

私が初めて小網代に入ったのは
やはり夏真っ盛り

とても暑かったはずだけれど
その記憶は無い

今は不要となった長靴を履いて
道とは呼べないほどぐちゃぐちゃの
泥道を歩いたのだが

覚えているのは
さざめく木々の光
涼やかに飛ぶカワトンボ
案内してくれた今は仲間の笑顔
目を細めながら共に歩いた人々

同じ夏が来る
今年初めて小網代に出会う人がいれば
きつと同じように
暑さなど気づかずに歩いて行くだろう

挿絵 伸



祖父川精治

神奈川県の中央部を流れる境川は、旧武蔵国と相模国を分離して流れ東京都町田市の最高峰である草戸山 365 メートルを水源として湘南江の島海岸へ注ぐ。

その中流域沿いの土地には、全国的にも珍しいサバと書く神社が大小 12 社も現存する。この謎のようなサバと書く社を調べてみると、それぞれ左馬、左婆、左間、鯖と名付けられて興味深い。今も広く伝えられているのは、鎌倉幕府を開いた源頼朝の父、義朝佐馬頭を祭神として祀ったことに由来するという。

昔は、民間信仰として子供達が百日咳、麻疹、疱瘡などの疫病が流行ると 7 カ所のサバ社を選んで「7 サバ参り」が行われたという。これらは横浜市瀬谷区、泉区、大和市、藤沢市の周辺部に位置し、他所では例のない社名の神社を巡り訪ね歩くものである。

相模鉄道瀬谷駅下車、南方の境川へ向かって歩く。徒歩 20 分。瀬谷八福神布袋尊を祭る西福寺に隣接する瀬谷の左馬社へ。社の神紋は源氏縁ゆかりりの笹竜胆「ササリンドウ」。神社には珍しい鐘楼があり、昔は疫病が流行ると鐘を打ち鳴らしたという。



境川沿いに下り、新道大橋で境川を渡る。左側の台地へ上ると、広い鎮守の森に囲まれた上和田の左馬神社に着く。数あるサバ社の中でも、最大級の広い神域である。社前の道は、江戸時代からの巡礼古道で坂東三十三観音霊場札所めぐりの鎌倉と座間を結んでいる。

境川へ相沢川が合流するのを眺めながら、新幹線の高架の先に大規模団地があり隣接して緑豊かな屋敷林が広がる。大津家の長屋門があり坂の途中に県指定の「下和田の大けやき」が聳える。その正面に左馬神社「下和田」がある。鐘楼があり常夜灯には寛政元年鯖大明神と刻まれている。

長後街道に架かる高鎌橋、その先に境川唯一の珍しい木造の渡戸橋。東へ 5 分で鯖社「下飯田」に着く。傾き欠損した庚申塔や石仏等が各所に散在している。「鯖社境内払下記念」と刻まれた石碑がある。

最近、大規模開発しショッピングセンターや住宅地として発展著しい相模鉄道ゆめが丘駅へ徒歩 15 分。

相模鉄道と横浜地下鉄の高架橋の先に鯖「今田」神社。不審火により焼失後、再建されたという。

人工的な和泉川を上流へ向かい、台地にある鯖神社「鍋屋」に着く。常夜灯が並び、古い柱の文字は密蔵院鯖神社と読める。

小高い森は「横浜市天王森公園」で、歴史的建造物である旧清水生糸場本館を事務所として使っている。

和泉川を上流に向かい、御蔵橋の向かいの台地には左馬神社「中の宮」。神紋は笹竜胆。いずみ中央駅、横浜市泉区役所を眺めながら御蔵橋の向かいの台地には左婆神社「神田」に着く。

神紋は笹竜胆。がっちりと大地に根を張ったご神木のタブの巨木は地域のシンボルである。

■ スタッフ研修第 10 回三浦の海岸歩き「油壺」

4月6日（土）参加者6人。



まずまずの好天と、満開のオオシマザクラやソメイヨシノに恵まれて、三崎口駅前から、ちょうど来合わせた「油壺温泉行」バスに乗り込み、油壺入口バス停で下車。同じ油壺入口だが、下見の時とは異なる位置で降りて、あれれ、どの道だったっけ？仲間がスマホの位置情報を使い「こっち、こっち！」と教えてくれた。



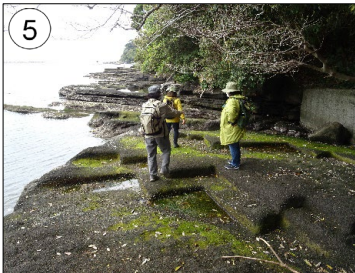
この道を入っていくと、諸磯湾に注ぐ水系の一つに行くことになる。すぐ道沿いに心光寺と言うお寺がある（写真 - ①）。三浦観音 33 番札所である。以前、三戸光照寺の三浦正英ご住職が、「三崎方面に行くには渡船で小網代湾を渡った方が早かった。渡船で諸磯の観音様へよく行ったものだ」と話されていた、諸磯の観音様だ。ちなみに、「三浦 33 観音めぐり」というのがあって、光照寺が番外の 0 番で心光寺が 33 番である。今日の海岸歩き、みんな無事に歩き通せますようにと手を合わせる。



少し先で人家はなくなり、開けた畑の中の道に出る（写真 - ②）。むかし、このあたりは小川に沿ってガマやアシの茂る放置された田畑がつながった、谷あいの野道だった。この 20～30 年の間に、諸磯・小網代土地改良区の農地造成工事で、一変して広い畑に変わったようだ。



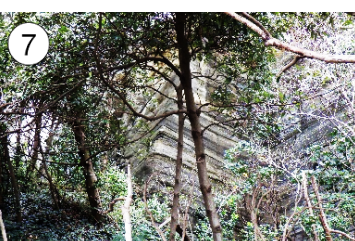
海に近づき人家が現れるあたりで、東岡や名向小学校周辺からの水系も合流し、舗装路の地下を流れる水がごうごうと音高い。暗渠となって諸磯湾に注いでいるようだ。



諸磯湾に出て（写真 - ③）、今回の海岸歩きは諸磯の北、名向崎から。諸磯湾側を西進、11 月に須田先生にご案内いただいた、戦跡の洞窟を過ぎ、西向きの手掘りのトンネルを通る（写真 - ④）。トンネルの中ほどから海方向に掘られた、特攻艇の格納庫だったとされる真っ暗な別れ道も、懐中電灯で照らして確認。



トンネルを出た先の造船所の社長にご挨拶して、岬の先端方面に通していただく。磯に降りるとそこここに、四角く切り取られた石切り場の跡がある（写真 - ⑤）。なるほど、ここから切り出して船で運べば山から切り出すより簡単かもしれない。滑らないように気をつけながら進むと白砂の浜が見えた。「浜は、昔よりだいぶ、痩せちゃったよ」と言われた社長の言葉通り、岩が露出し、昔見た白砂青松とはいかなかったが、南側の諸磯湾、北側の油壺湾と新井城をしのぶ高台の景色は抜群である。東大臨海実験所の由緒ある煉瓦の建物が無くなったのは淋しいけれど（写真 - ⑥）。ここから先には進めないのもどる。造船所のすぐ手前で、高さ十数メートルの崖を四角く切りこんだ石切り場を発見（写真 - ⑦）。



名向崎の付け根までもどり、油壺湾奥から油壺公園を経て、遺跡めぐりでお世話になった油壺ボートサービスさん（写真 - ⑧）に、やはり戦時中に使われた洞窟を見せていただく。敷地の縁に数か所あり、子どもの頃の遊び場だったと、社長さんがいつか TV の番組で語っていらした。

この先の岩場は危険で進めないため、尾根に上って新井浜を目指す。

三浦同寸父子が、攻めよせる北条軍から 3 年間死守して果てた (1516 年) 新井城の内堀が、横堀^{よこぼり}海岸。半島の最も狭いところを横に掘ったもので、今は海水浴場の名として残っている。

左に折れて高台から見下ろす油壺湾の眺望は素晴らしく、名向崎の白砂の浜も見える。神奈川の景勝 50 選の碑も建っている (写真 - ⑨)。

荒井浜に降りて、おや、大河ドラマの影響か、「三浦一族資料館」なるものができてる！お弁当を食べて、さあ午後からは地層を見て歩こう。

荒井浜は、城ヶ島から北向きに拡がって続いてきた三崎層が、初声層とせめぎ合っ^あて入れ替わる地点である。そのため諸磯で見たインジェクタイト (写真 - ⑩) や断層が見られ、激しい地層の攪乱があったと想像される。我々が地質女子 K さんは、山なりに折れた地層 (写真 - ⑪) を見て、ビスケット、いや違^{かわら}う、瓦^かを膝をてこに両手で「バキッ」と割る…と、実にリアルでわかりやすく説明をしてくれる。半島の先端方向に行くと、整然とした三崎層の上部に黄色い初声層が堆積した崖が続くが、落石の危険があり綱を張って近づけなくしてある (写真 - ⑫)。先に行くのはやめ、再び尾根に上り三浦同寸の墓 (写真 - ⑬) を経て小網代湾側の胴網海岸に向かう。同寸の墓には有名な辞世の歌

討つものも討たるものもかわらけよ 砕けて後はもとの土くれ
が刻まれていた。胴網海岸 (写真 - ⑭) は息子荒次郎が最後に自分の首を掻き切って自決し、捨てられた首なしの胴体が漁師の網にかかって引き上げられたところだそうだ。

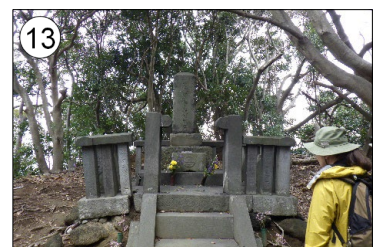
先端方向に進むとすぐ初声層の露頭があり、バウムクーヘンのように細かな筋が斜めに入ったクロスラミナ (斜交葉理) が観察された (写真 - ⑮)。海底で一定方向の水の流れを受け、泥や砂が堆積したもので、特に初声層に多く見られるそうだ。火山豆石がありそうだと探したが、今回も見つけられなかった。いつか必ず見つけたい！

この先の階段が危険ということで、協議して今日の海岸歩きはここまでにする。来た道をバス通りまで戻り、油壺温泉バス停で 3 人とお別れ。残り 3 人で、しばらく見ていない小網代の森を抜けて帰ることにした。

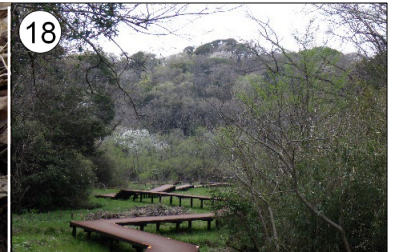
途中シーボニア近くの「鶴ヶ島食堂」 (写真 - ⑯) の奥さんに教わった、三戸の御用邸予定地お買い上げのおり、境界に植えられて今も 1 本だけ残っているという、巨大なモチノキを確認させてもらった。出てこられた奥さんが、さらに境界の石も残っていると話されているところに、折よく近所の方が通りかかり、「どうぞどうぞ」と、ご自分の所有地にある境界石を見せてくれた (写真 - ⑰)。御用邸予定地の境界石は、三戸の光照寺以外にもたくさんあったはずだと思って気にしていたので、対岸にも見つけたり、お宝を発見したみたいに嬉しい！！

とても疲れていたが、春の装いの森に出会い (写真 - ⑱) みんな心からホッと癒されて家路についた。

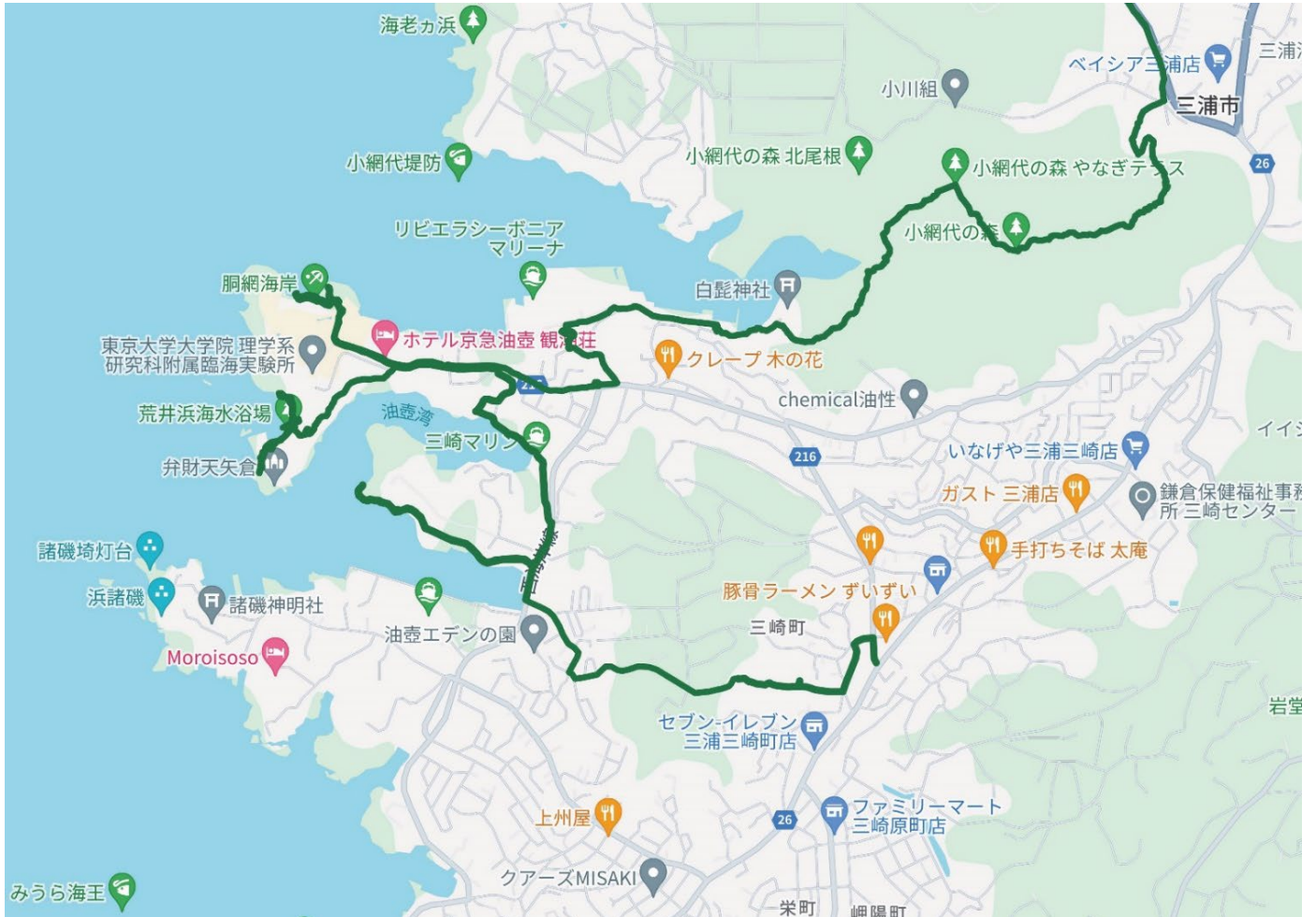
記 松原あかね 写真 浪本晴美 木皿直規



☆彡 次回の海岸歩きは 10 月頃を予定しています。



20240406 海岸歩きルート図



Google マップ上に木皿直規さん開発のスマホアプリ『位置ロガー』で記録した GPS 情報をマッピングし、ルートを示しました。

●●● 海岸歩き参加者のご投稿 ●●●

「諸磯」の次、今回は「油壺」。油壺入り口でバスを降り、入り組んだ谷戸をたどり名向崎へ。縄文や古墳などの遺跡があるそうですが、今は畑や藪で何処にあるかイメージがわかりません。諸磯湾に出て海伝いに戦争遺跡のあるトンネル（11月の遺跡探訪会でちょっと入ったよね）を抜けると造船所。そこを通らせてもらい先端の浜へ、潮が引いていないと通れない所です。岩場を抜ける自信が無く私だけ造船所近くの浜で待ちました。名向崎の台地の上から海岸までの道がないので早く通してくれないかな。景色が良い所なので遠足したいです。少し待つと帰ってきたので元の道に戻り油壺湾から新井浜へ。ここからは地層見学ですが！が、まず昼ご飯。元気が出た所で新井浜の南側、以前の船着き場近くから地層の傾きを見ながら歩くと、黒いスコリアの地層がバッキリ折れその先は反対側に傾いていました（写真 - ⑩）。このバッキリは地面の下で繋がっているのかな？油壺の細い台地の下はバッキリだらけ・・・想像してしまいます。この辺は油壺層（三崎層）スランプ構造や断層がいっぱい、近くに火山豆石が含まれる地層が有るらしいのですがわからない、ん～残念！

少し戻ってプールのような浜の北側、大きいおはぎのような岩の中に薄茶色の柔らかい石がところどころ入っています。チョコフレークを固めた中にボウロが入っているみたい（地層はお菓子に似ていますねフッフッフ）

台地の上に一度もどり、三浦道寸の墓の所から海岸に下りました。ここは初声層の茶色い重なりがよく見える所ですが、崖崩れでそばに寄れなくなっていました。雨も降ってきたので、繊細なクロスラミナをちょっと見て（斜めの筋が入ったバウムクーヘンです）バス停にもどりました。

AK

■ 小網代の森 NEWS

●●● スタッフの活動

2024.06.02（日）通信 41 号発送作業

2024.06.16（日）スタッフ研修 「変形菌探し 2024@光の丘水辺公園」

2024.06.23（日）スタッフ会議（リモート）

2024.07.08（月）スタッフ研修 「変形菌探し 2024@光の丘水辺公園」

2024.07.09（火）南下浦コミュニティセンター（愛称チェル Sea みうら）会場下見

2024.07.14（日）スタッフ会議（リモート）

2024.07.18（木）スタッフ会議（リモート）

●●● ご寄付ありがとうございます

安西章次様 石川登美子様 遠藤黎美様 岡田尚子様 小田島一生様 金木公子様

川上晴美様 倉内大輝様 倉内ちひろ様 クララバンバム様 柿島京子様 加瀬アンナ様

加藤紀子様 塩入一弥様 柴内朱美様 嶋津誠様 鈴木カヲル様 鈴木慶子様 祖父川精治様

高橋伸和様 高間玲江様 辻晴一様 土屋圭子様 仲澤イネ子様 浪本晴美様 西川次代様

橋美千代様 速水健史様 藤崎洋子様 松原あかね様 松林伸子様 三本保子様

宮下孝一様 宮本美織様 盛野成信様 盛野雅子様 吉田茂様 山本述子様（五十音順）

以上の皆さまからご寄付をいただきました。ありがとうございます、大切に使用させていただきます。

●●● 2025 こあじろの森くらぶカレンダー 画像募集

こあじろの森くらぶオリジナルカレンダーの 2025 年版をみんなで作りたいと思います。カレンダーに載せる画像を募集しています。応募された方には参加賞として、2025 年版カレンダー（1 部／人）をプレゼントします。ふるってご応募くださいますようお願いいたします。

募集要項

応募資格：こあじろの森くらぶ会員とそのご家族、ご友人の方

応募受付期間：2024 年 8 月 1 日から 2024 年 9 月 30 日まで

応募作品：2023 年 10 月から 2024 年 9 月までに小網代の森で撮影した写真又はイラストで、他に発表されていない作品（季節感のある画像が採用されやすいです）
横長の画像で 500KB 以上のデジタルデータ（可能であれば JPG）

応募方法：info@mori-club.com に、申し込みメールをお送りください。メールタイトルを「カレンダー申し込み」とし、メール本文に、お名前・ご住所を明記してください。こちらから投稿サイトのご案内メールを返信させていただきます。

選考：2024 年 10 月にリモートで選考会

発表：2024 年 11 月下旬発行のこあじろの森くらぶ通信に掲載

お問合せ：info@mori-club.com（画像受付担当）

●●●光の丘水辺公園イベント予定

9月14日 ザリガニ釣り（一般募集）
10月5日 稲刈り（キッズ自然教室） 予備日6日
11月9日 脱穀（キッズ自然教室） 予備日16日
12月後半未定 しめ縄作り
その他、毎月第1土曜日 自然観察会
第4土曜日 早朝探鳥会

光の丘水辺公園 HP : <https://www.ryokukazouen.jp/mizube/entry>

水辺公園管理事務所電話/FAX : 046-849-7650

●●●第9回こあじろの森くらぶ総会

第9回こあじろの森くらぶ総会を行いますので、是非ご参加ください。今回の総会は、新しくなった南下浦コミュニティセンター（旧 南下浦市民センター）での開催。会員の皆さまには、本通信に総会の議案書と委任状を同封いたしました。不参加の方は委任状をお送りくださいますようお願いいたします（恐れ入りますが郵便料金をご負担ください）。

日 時 : 2024年8月25日（日） 午前11時30分より

会 場 : 南下浦コミュニティセンター 三浦海岸駅から徒歩1分
2階調理室（前号のお知らせとは部屋を変更いたしました）

13:00まで調理室での飲食が可能です。お弁当をご持参の方はこちらをご利用ください（各自ゴミのお持ち帰りをお願いします）。

参加資格 : こあじろの森くらぶ会員

総会終了後、2階多目的ホールにて14:00よりドキュメンタリー映画「掘る女 縄文人の落とし物」を自主上映いたします。

●●●ドキュメンタリー映画『掘る女 縄文人の落とし物』自主上映会のご案内

「掘る女 縄文人の落とし物」は縄文遺跡の発掘調査に携わる女性たちを3年にわたって記録したドキュメンタリーです。ここ数年遺跡に関心を寄せて来たこあじろの森くらぶのみなさんにはピッタリな映画と思われませんが、残念ながら映画館の上映は終わってしまいましたので、自主上映会を企画しました。

日 程 : 2024年8月25日（日）13:30開場 14:00上映開始 終了16:30頃

会 場 : 三浦市南下浦コミュニティセンター 2階多目的ホール（定員84名・飲食不可）
どなたでもご参加いただけます。入場無料（任意ですが上映費用応援のカンパをお願いします）。

掘る女
縄文人の落とし物

公式サイト <https://horuonna.com/>
予告編映像もご覧いただけます。

松本貴子監督 最新作



こあじろの森くらぶ通信 No.42 2024年7月28日 発行 : こあじろの森くらぶ Koajiro Woods Club

所在地 : 〒238-0101 三浦市南下浦町上宮田 1528-75

連絡先 : ホームページトップの「お問合せ」からメールをお送りください（高橋）

電話 046-889-0067（仲澤）

ホームページ URL : <http://www.mori-club.com/index.html>

（右側のQRコードをスマホのQRコードリーダーで読み込んでください）

年会費 : 1000円（7月～6月）入会金不要

郵便振替 : こあじろの森くらぶ 00290-6-137303（新規ご入会の方はお振込み後上記連絡先へご一報ください）

